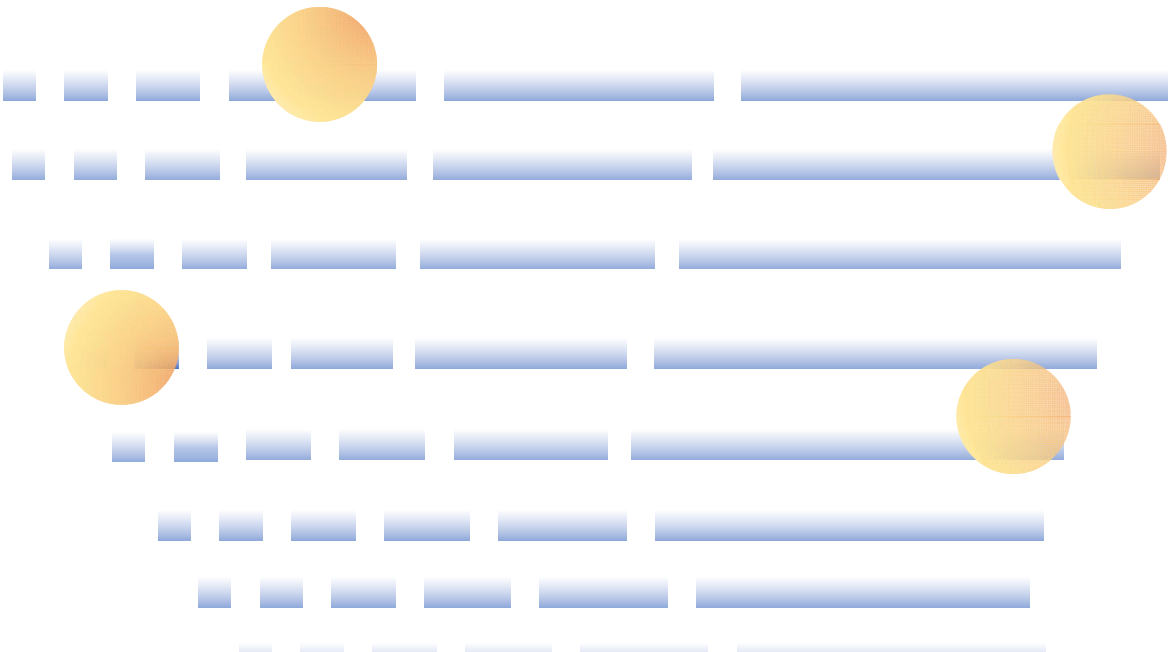


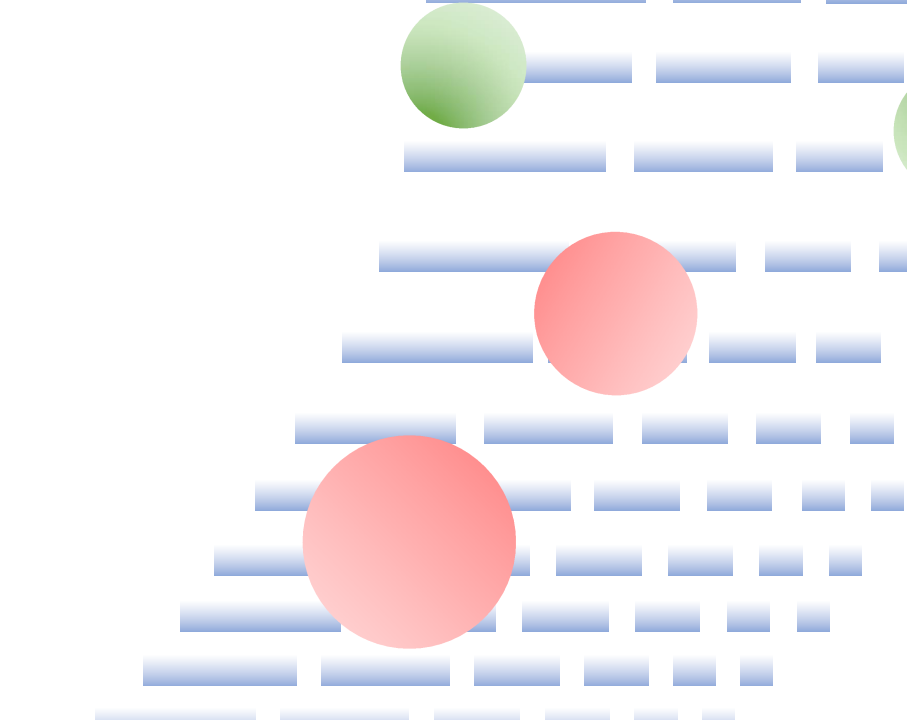


下関市地域公共交通網形成計画



追補編

(「地域公共交通計画と補助制度の連動化」に伴う一部改訂)



令和6年6月

下関市

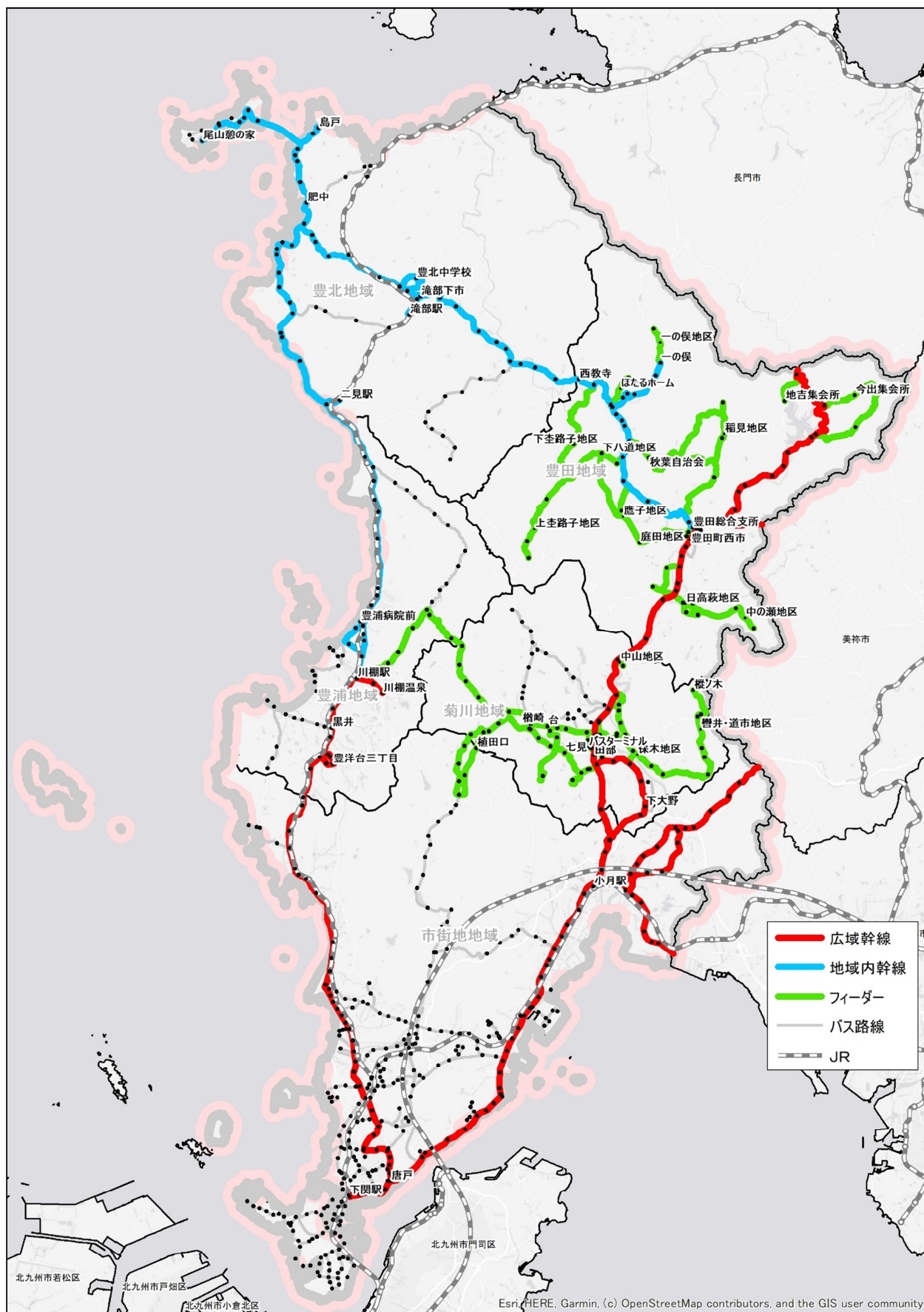


1. 補助系統の地域公共交通における位置付け・役割

公共交通の将来像における広域幹線、地域内幹線、地域内フィーダーの位置付け・役割を次のとおり定める。

表 1 補助系統の地域公共交通における位置付け・役割

区分	位置付け・役割	連絡する拠点等	確保・維持策
広域幹線	- 本市の公共交通ネットワークの骨格となる南北方向の軸を形成。 - 本市と周辺市町村を連絡。	- 下関駅 - 小月駅 - 川棚温泉駅 - 豊田町西市 - 周辺市町村	地域公共交通確保維持事業を活用した車両取得及び地域公共交通確保維持事業(幹線補助)を活用し持続可能な運行を目指す
地域内幹線	広域幹線軸に接続し、主に東西方向の軸を形成。	- 小月駅 - 川棚温泉駅 - 豊田町西市 - 滝部駅	
地域内フィーダー	周辺住宅地と幹線軸を結ぶ支線。	- 岡枝 - 菊川バスターミナル - 川棚温泉駅 - 豊田町西市	地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し持続可能な運行を目指す



資料: 下関市資料、下関市生活バス HP、下関市都市計画基礎調査結果(令和4年度)

図 1 補助系統の運行路線図



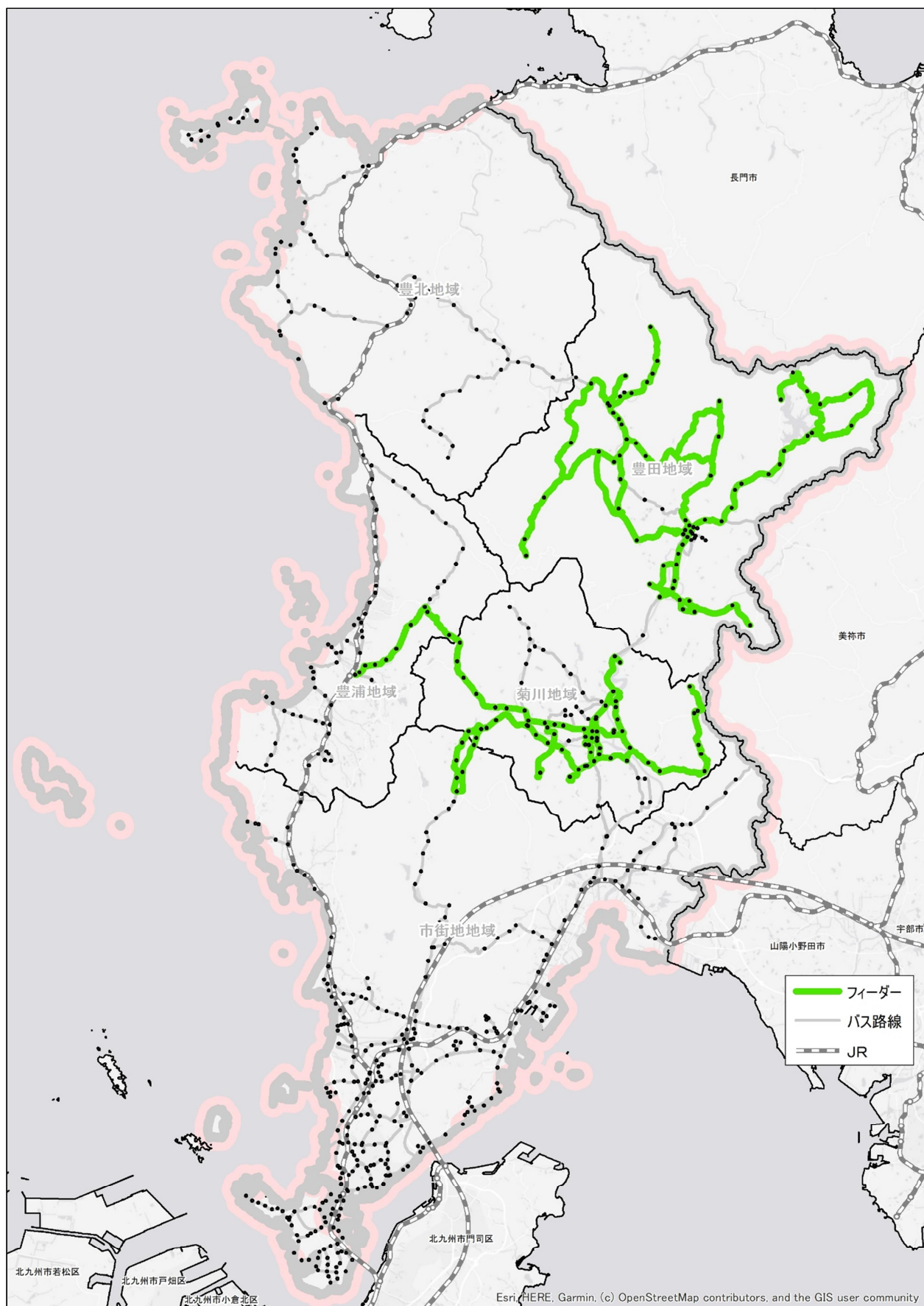
資料：下関市資料、下関市生活バス HP、下関市都市計画基礎調査結果(令和4年度)

図 2 補助系統の運行路線図(広域幹線)



資料：下関市資料、下関市生活バス HP、下関市都市計画基礎調査結果（令和4年度）

図3 補助系統の運行路線図（地域内幹線）



資料: 下関市資料、下関市生活バス HP、下関市都市計画基礎調査結果 (令和4年度)

図4 補助系統の運行路線図 (地域内フィーダー)

2. 補助系統の必要性

<広域幹線>

- 本市の公共交通ネットワークの骨格となる南北方向の軸を形成している。
- 都市拠点（下関中心部）と地域拠点（菊川、豊田、豊浦）、周辺市町村（山陽小野田市、美祢市、長門市等）を連絡し、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動だけではなく、観光、ビジネス等、多様な目的での移動を担う。
- 一方で、事業者や自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

<地域内幹線>

- 広域幹線に接続し、本市の公共交通ネットワークの骨格となる主に東西方向の軸を形成している。
- 本市の地域拠点（豊田、豊浦、豊北）間を連絡する日常生活行動の移動を担っており、広域幹線を補完する欠かせない路線である。
- 一方で、事業者や自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

<地域内フィーダー>

- 本市の地域拠点（菊川、豊田、豊浦）を中心として、周辺住宅地と広域幹線、地域内幹線を結ぶ支線として、日常生活行動の移動を担っている。
- 一方で、自治体の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。

3. 補助系統の運行路線

補助系統の運行路線一覧を以下に示す。

表 2 補助系統の運行路線一覧

位置づけ	起点	経過地	終点	運行会社	
広域幹線	下関駅	唐戸	川棚温泉	サンデン交通	
		豊洋台3丁目			
		小月駅・小野田駅	おのだサンパーク		
		小月駅	大泊		
		下大野	豊田町西市		
		小月駅	美祢駅		
	豊田町西市	美祢青嶺高校	来福台	ブルーライン交通	
		平原・市民病院			
地域内幹線	小月駅	小野田駅	おのだサンパーク	サンデン交通	
	豊田町西市	下大野	小月駅		
	下関駅	小月駅	依山温泉		
	小月駅	豊田町西市	大泊		
	小月駅	田部バイパス	豊田町西市		
	川棚温泉	二見駅・道の駅	肥中	ブルーライン交通	
		豊浦病院	肥中・島戸		
	豊田町西市	西教寺	滝部駅		
	滝部駅	病院・ホーム・一の俣	豊田町西市		
フィーダー	豊田総合支所	下空路子・下八道・鷹子・庭田	上空路子	下関市 (生活バス)	
		一ノ俣・上浮石・秋葉・稲見	佐野		
		今出・台	地吉		
		日高萩	中の瀬		
	菊川バスターミナル	中山・保木・轡井	樅ノ木		菊川バスターミナル
		吉賀・檜崎・日新・植田・内日下			
		吉賀・日新・内日下			
		七見・上田部・檜崎・日新・内日下			
		吉賀・檜崎・久野	川棚駅		

4. 数値目標

数値目標を以下に示す。

表 3 数値目標一覧

数値目標	データ取得方法	現況値 (R5 年度)	目標値 (R10 年度)
路線バスの 年間利用者数	バス事業者保有の乗降データ 等により毎年計測	16,646千人/年	現状維持
公共交通に係る 市の財政負担額	普通会計決算等より毎年整理	36,620万円/年	現状維持
市内路線バスの 収支差	事業者報告書、決算報告書等 の資料から毎年計測	▲112,636万円/年	1%改善